



# 1 ねらい

夏目漱石と樋口一葉の生い立ちや作品に触れることで、明治の文学界をリードした二人の小説家の考え方や当時の人々に与えた影響について知る。

# 2 授業の流れ

## 1 導入・視聴前のポイント (10分)

・日本を代表する小説家、夏目漱石・樋口一葉の生い立ちや作品、考え方や当時の人々に与えた影響について予想する。

★夏目漱石は、「吾輩は猫である」で作家デビューをし、「坊ちゃん」「三四郎」と立て続けに作品を発表し、人気作家としての地位を固めていったことに気づかせるようにする。

★樋口一葉は、生活に苦しみながらも「たけくらべ」「にごりえ」「十三夜」といった秀作を発表し、文壇から絶賛されるようになったことに気づかせるようにする。

## 2 学習課題の提示

夏目漱石や樋口一葉は、どのような生涯を送り、どのような作品を残したのだろうか。  
また、彼らは、作品を通して何を伝えたかったのだろうか。

## 3 番組視聴 (情報収集) ワークシート1 (20分)

・夏目漱石と樋口一葉の生い立ちについて、分かったことをワークシート1にメモする。

★夏目漱石:小説家、中学校教師、愛媛県松山市、正岡子規と交流、ロンドン留学、漱石山脈

★樋口一葉:女流小説家、貧しい生活、職業女流作家

## 4 情報整理 ワークシート2 (10分)

・夏目漱石と樋口一葉の作品について、分かったことをワークシート2にメモする。

★夏目漱石:吾輩は猫である、坊ちゃん、三四郎、それから、こころ

★樋口一葉:にごりえ、たけくらべ、十三夜

## 5 まとめ ワークシート3 (5分)

・学習課題についてのまとめをする。

# 3 評価のポイント

夏目漱石や樋口一葉が、どのような生涯を送り、どのような作品を残したか、周囲にどのような影響を与えたかについて、自分の考えをワークシートにまとめている。(思考・判断・表現…主にワークシート3)

## ワークシート例



歴史に  
ドリワークシート

なつめ そうせき ひくちいちよう  
夏目漱石・樋口一葉 ~明治の文学~

くみ なまえ

### 学習課題

夏目漱石や樋口一葉は、どのような生涯を送り、どのような作品を残したのかを知ろう。また、彼らは、作品を通して何を伝えたかったのかを考えよう。

1 夏目漱石と樋口一葉の生い立ちについて、分かったことをワークシート1にメモしよう。

#### ★夏目漱石

- ・明治を生きた小説家である。
- ・中学校の英語教師として、愛媛県松山市に赴任した。
- ・正岡子規と交流を深め、多大な影響を受けた。
- ・1900年、イギリスのロンドンに留学した。
- ・帰国後、大学で英文学を教える傍ら、小説を書いた。
- ・漱石を慕って、多くの弟子が集まった。
- ・漱石山脈の中には、芥川龍之介の姿もあった。
- ・当時の文学界をリードした。

#### ★樋口一葉

- ・女流小説家である。
- ・近代以降では最初の職業女流作家だった。
- ・17歳の時、父親が亡くなり、貧しい生活を強いられた。
- ・貧しさの中で働く女性たちの苦しみや悲しみに触れ、その体験から代表作『にごりえ』を書いた。
- ・次々と秀作を発表し、文壇から絶賛されたが、24歳の若さでこの世を去った。

2 夏目漱石と樋口一葉の作品について、分かったことをワークシート2にメモしよう。

#### ★夏目漱石

- ・初めての作品、『吾輩は猫である』は、猫の視点で当時の日本人の文化や日々の暮らしをユーモラスに、風刺を込めて書き、大評判になった。
- ・その後も『坊ちゃん』、『三四郎』、『それから』、『こころ』と次々と作品を発表した。
- ・近代化によって変わりゆく明治の世で、いかに生きるか苦悩する人物を描いた。

#### ★樋口一葉

- ・代表作『にごりえ』は、貧しさの中で働く女性たちの苦しみや悲しみを描いた。
- ・24年の生涯の中で、『たけくらべ』『十三夜』など、なくなるまでの1年2ヶ月の期間に日本の近代文学史に残る作品を残した。

3 学習課題についてまとめよう。

- ・夏目漱石は、日本人の生き方を鋭く見つけた小説で、明治の文学界をリードした。
- ・夏目漱石は、日本人の日常を軽妙洒脱に書き、いかに生きるかを小説を通じて考えた。
- ・樋口一葉は明治の庶民の感情をありのままに小説に書いた。
- ・樋口一葉は、苦しみ、悲しむ人々を自分の書く小説で慰めたいと考えていた。

